NO.183 会社訪問

代表取締役 **田中 礼右** 氏

株式会社アスカインデックス

会社プロフィール
代 表 者：代表取締役 田中 礼右
本　　社：〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町 1-4-7 彦田ビル 3F
TEL:03-3526-6011　FAX:03-3526-6012
支　　店：長野県上田市塩尻
展示・技術センター：山梨県都留市上谷、甲州市塩山、福岡県大牟田市
高度技術センター：熊本県水俣市丸島町 / 海外技術センター：台湾新竹市
設　　立：1995 年 3 月 10 日
資 本 金：2,000 万円　　従 業 員：100 名（台湾 5 名含む）
事業内容：理化学機器及び設備の買取り販売、クリーンルームの移設・企画・設計・施工 / 工場閉鎖・移転等に伴う工場施設の撤去工事
半導体、電子デバイス生産装置の売買 / ターボポンプ、クライオポンプのオーバーホール及びメンテナンス / 半導体電子デバイス成膜受託、半導体実技総合大学校の運営
U R L：https://askindex.co.jp

聞き手：岡田康弘（編集長）、取材・撮影・編集：クリエイティブ・レイ㈱

ASK INDEX askindex.co.jp 理化学機器の中古買取り販売、クリーンルームの移設・企画設計・施工 半導体電子機器の販売から成膜受託、半導体実技総合大学校の運営

御社の事業内容についてお聞かせください。

田中　弊社は4つの事業形態があります。1つ目は、主に工場や研究所、理化学機器全般の中古産業機器の買取り販売事業で、創業時から29年の取引実績があります。

中古機器の展示は、山梨県都留市、甲州市塩山、福岡県大牟田市のテクニカルセンターで展示販売をしています。

2つ目は、クリーンルームの移設・新規企画設計・施工事業です。3つ目は、ちょっと珍しい、工場や施設を一式、まるごと買取る事業です。

そして4つ目は、半導体電子デバイスの成膜受託から、半導体の実技を習得できる学校の運営です。熊本県水俣市の高度技術センターは、半導体の製造の他、現場で実際に使う機械や素材を使った半導体の製造工程、装置・材料などの知識や技術を身に着けられる教育研修の施設です。こちらは、初心者から半導体製造に関わるオペレーターのスキルアップや半導体事業の即戦力となる実技者を育てることを目的とした、日本で唯一の「実践型の半導体実技総合大学校」です。

ASK INDEX askindex.co.jp
① 山梨県都留市上谷展示・技術センター
② 甲州市塩山展示・技術センター
③ 福岡県大牟田市展示・技術センター
④ 熊本県水俣市丸島町高度技術センター
⑤ 台湾新竹市海外技術センター

科学機器　No.916　2024.10

経営資料

このように国内4か所のテクニカルセンターに加え、半導体事業に強い台湾に海外拠点を置いています。現在、韓国にも新事業所の展開を企画推進しています。

本社は東京都千代田区鍛冶町に、支店は長野県上田市に国内拠点を置いています。

各事業に、御社の独自性を感じます。少し詳しくお聞かせください。

田中　中古機器の買取り販売ですが、特に力を入れているのが、半導体及び電子デバイス関連の製造装置をはじめ、理化学系では測定機械、計測機械、各種検査装置などを多く取り扱っています。その他の工作機械、成型機、什器・備品などは、これまでに10万点以上の取引実績があり、現在も26,000点の各種理化学機器を国内外5か所の技術センターで展示販売しています。

買い取った製品は、弊社で保管・診断し、必要に応じて修理を行います。ものづくりは非常に厳しい基準が求められますので、その基準値に応える信頼性が非常に大切になります。その知識、技術力、ノウハウを持ったエキスパート集団が、弊社の強みと言えます。

また、商品は装置が実際に使用される状態で展示され、実際にクリーンルームで電源を入れて“動作チェック”が行えるようにしていますので、お客様がその場でご判断していただけます。

工場の買取り事業もあるわけですね。

田中　はい。お客様は複数の買取り業者への手配が不要となります。弊社の目利きスタッフが対応することで、廃棄費用の削減が可能になります。これまでの買取り実績は、製造工場関連が60%、大学施設が20%、研究機関が20%、他にプラントの撤去や移設工事も行ってきました。つまり解体と新規建設の両方を行えるのです。

弊社は、国土交通大臣が許可した特定建設業免許を取得しているので、地域の制約、事業による金額の上限の制約がなく、解体と建設を行うことが出来るのが強みです。

また、弊社が買い取った設備機器を使い、小ロットやサンプル品の生産に役立っています。半導体メーカーの企業の皆さまにとって、納期やコストを割らないで、希望値段と納期で小ロットの製品を作りたいケースがありますが、そうした類の半導体生産に活用いただいています。

半導体実技総合大学校について、お聞かせください。

田中　2021年から着手した教育研修事業が、熊本県水俣の弊社高度技術センターにあり、2022年6月に開所しました。ここは半導体の座学に加え、実際に半導体生産装置、材料を用いて、半導体製造の「前工程」、来年度からは「後工程」両方を体験的に学べて、技術を習得できるという学校です。

日本の半導体戦略を担う会社として、政府の大きな支援のもとに設立されたRapidus株式会社は、多くの方が耳にされたことがあると思いますが、そこを含め、大手半導体メーカーの方々が研修にいらしています。

また、弊社はこの学校を小・中・高校・高専・大学などの学生向けに利用いただいています。これは「未来の投資」という思いで、参加者のお弁当まで含めて、弊社が無償で行っています。昨年、熊本高専の3名の生徒が、この大学でカリキュラムを受講し、全員が半導体技術者検定3級に合格しました。熊本高専では初のことでした。今年は既に16名の受講依頼が来ています。その他、山梨県都留市の技術センターでも、無償で地元高校への出前授業を行っています。学校側は、様々なメディアの取材依頼が入り、注目が高まっていると聞いています。

昨年、熊本に台湾のTSMCが工場を完成させて、今年12月に生産が開始されることで、活気づいている様子をニュースなどで知ることがあると思います。これは国家プロジェクトで誘致したわけですが、実は銀行の調査で、約5兆円の経済効果があるそうです。

こうした“半導体を学べる学校”を創設された理由は、何だったのでしょうか。

田中　かつての日の丸半導体の没落は、以前から気になっていました。そうした中、各種の半導体機器が弊社にある状態の中で、海外に販売するだけでは日本の損失になってしまうのかもしれず、日本の将来のために役立てる力になれないかと考えていたのです。

半導体業界の設備は、俗に“1mで1億円”言われるほど高額です。なので、仮に人材育成の学校を創りたいと思っても、機器を揃えることは現実的に難しいのです。また、企業内の施設で人材を育成しようとすると、教育のために普段の製造ラインを止めることになります。それは何億円もの規模の損失になってしまいます。しかしながら、半導体の知識を担う人材は、これからも不可欠なわけです。そこで弊社が

経営資料

保有する実機を活かし、学校という形を整え実行に移しました。初期投資で約3億円、それから外装や追加の設備を加えて、約5億円はいったかと思います。

創業から29年、これまでの歩みをお聞かせください。

田中　20代は、オフィス製品で有名な(株)オカムラにいました。その後30代は、フロッピーディスクや音楽・ビデオテープなどの磁気メディアの業界に10年間在籍していました。その両社で、ものづくりの厳しさを学びました。

弊社の創業のきっかけは、勤めていた磁気メディアの会社が倒産したことでした。原因は、記録メディアの激変です。レコード盤からわずか30年ほどの間で“ハチトラ”と言われた8トラックのテープ、カセットテープやビデオテープ、そしてフロッピーディスク、CDやレーザーディスクと次々に記録媒体が変わりました。

そういった過渡期の1995年に6人で会社を設立、お金がなくて、段ボール箱を机代わりにしていました。社員と外食するお金もないので、食肉店でお肉を買ってすき焼きをしたのですが、翌日は事務所が強烈な臭いでした。そうやって頑張っていましたが、3か月後には6人の従業員が3人に、その翌月は2人に…と、厳しい船出でした。

会社が軌道に乗るきっかけは、どんなことだったのですか。

田中　某大手企業がレーザーディスク事業を辞めることになり、機器の“処分”を工場まるごと任されたのです。レーザーディスクの製造ラインを19本、年度末の3月31日までに処分しないといけない状況でした。1ラインが約3億円強の装置で、それが19ライン、つまり約60億円の設備装置ですが、保有しているだけで税金が掛かるので、処分してくれと託されたわけです。

実は、この処分が大変な幸運だったのです。私は、先方の担当者と古くから付き合いがあり、私の創業にあたり、今後こういう会社にして行きたいという理想を語ったのです。引き取る際にも、引き取った装置は、このようにしますという企業ビジョンを語りました。実績がないので理想しか語れなかったのです。それを、「いいね!」と、役員の方が全面的に支援してくれました。この時は、すき焼きの「今半」という老舗店で、松阪牛を食べて祝いました。

その頃から「アスカの田中に頼めば、何とかしてくれる…」という話が広まり、引き合いが多くなりました。そうして、弊社が一旦在庫診断するので、売る方も買う方も便利で、スクランブル交差点のようになったわけです。

また、それまで前例がなかったのが、弊社が販売の前に販売金額をオープンにした事でした。これは業界の“掟やぶり”で、実は機械連合会から異端と言われてきました。最初から値段をオープンにすることが、それ以前の取引慣例とは違ったわけですが、それが逆に、お客様への安心と信頼に繋がっていったと思います。

田中社長が思う、日本の半導体業界の今後の可能性や、活路をお聞かせください。

田中　過酷な使用状況で通用する半導体、つまり“パワー系”の半導体に可能性があるだろうと思います。AIに搭載する半導体は、高度になるほど、使用環境で熱を持ちます。その傾向は、自動車やロケットに搭載されるAIなどを考えると、ますます顕著になります。そうした過酷な環境でも、きちんと性能を発揮するパワー系の半導体には、日本の将来性が十分あると感じます。

もうひとつ言うと、立体的な半導体の製造にも、日本の技術力が活かせると思います。半導体の表と裏に電極が施せると、それは大変なアドバンテージです。髪の毛の10万分の1というような微細なレベルですが、日本の技術はそれが出来ます。また、更にそれをマンションのように立体的に構成できると性能はますます向上します。そういったところでも、日本の技術が存在感を発揮できると思います。

素朴な疑問ですが、例えば磁気メディアの製造は終わるのに、どうしてその製造装置に価値があるのでしょうか。

田中　「磁気メディアがなくなる」というのは、思い込みで、実はなくなるわけでなく、たまたま日本で生産性やコストが合わなくなっただけなのです。

ものづくりには、タクトタイムというのがあり、1つの製品をどれくらいの時間で出来るかというものです。あるものを1つ作るのに1分掛かるものがあるとすると、日本の場合は効率性の進化を求めるので、それが大体2割増しで0.8分を要求されます。するとその機械は使えなくなります。しかし、発展途上国では1分で十分、何なら2分でも十分というところがあります。そこには機器の需要がたくさんあるのです。

弊社は装置のライフサイクルを通して、環境への配慮と、社会への責任を果たしてまいります。

科学機器　No.916　2024.10

経営資料

御社の経営方針や経営理念をお聞かせください。

田中　一番は「信用第一・有言実行」です。そして、「社会から認められる企業になる」ということを大切にしてきました。中古の製品を扱うという点で、過去には言わば色眼鏡で見られていたこともあります。30年程前には「くず屋さんには…」という言い方をされました。ですので、より誠実なビジネスを心がけ、社会から認められるような、確立した事業にしていかなければならない、という思いがありました。

現在の課題や今後の目標をお聞かせください。

田中　課題は事業承継です。次のアスカインデックスを誰に、どのような形でバトンを継続するかが、私の課題です。

今後の目標は、水俣の半導体実技総合大学校を学校法人にすることです。文科省の方とも、職業訓練校のような位置付にできないか、相談を重ねています。

そして弊社としては、学校の教科書を作り、販売したいという展望があります。既に作り始めていて、内容やページ数ともに膨大なものです。文章はもちろん、図やイラストも他から引用することなく、オリジナルの書き起こしで作っています。

ここからは、田中社長の個人的なことをお聞かせください。座右の銘などはございますか。

田中　これまで色々な体験を重ねてきた中で、心に留めてきたのは、「失敗を、失敗と気がつかないことが大失敗だ」ということです。つまり「失敗に気が付く人間になっていきたい」と思ってきました。

そして、「自己犠牲の大切さ」です。平易な言葉で言うと、相手のために心と行動を尽くすことです。日本人には色々な美徳がありますが、私は自己犠牲というものは、一番美しさを感じる美徳だと思います。

自己犠牲という利他的な気持ちは時代など関係なく、人間同士が関係していく中でとても大事なことですよね。

田中　はい。例えば、相手のために時間を犠牲にする、体力を犠牲にする、時にはお金を犠牲にする、「他人のために自己を犠牲にすることが大切だ」ということは、自分の中で繰り返してきました。私の最大の座右の銘かもしれません。

話はそれますが、私は長野県佐久市の山奥の中学校を卒業して高校へ進学しました。その後、19歳で妻と知り合いました。その当時、私は大学への入学金をこつこつと貯めていましたが、そのお金で妻の20歳の晴れ着を買って上げた思い出があります。50年経って思うと、自己犠牲というには、ほど遠いエピソードですが、そうして結婚、ご縁に繋がったと思います。妻の方も私のために、色々な手助けをしてくれて、それで今の私があります。大変感謝しています。

犠牲という言葉は、人により受け止め方が違いますが、互いに相手を思う気持ちがコラボして、私の毎日があるのだと感じています。

趣味や、余暇に楽しんでいることはございますか。

田中　映画や読書が好きです。本は乱読ですが、私の人生に転機を与え、色々なヒントを教えてくれました。ジャンルを問わずに読みますが、小説では、和田竜の「村上海賊の娘」、東野圭吾の「流星の絆」、百田尚樹の「海賊とよばれた男」などは楽しく読みました。

また、趣味で畑をやっています。この夏は、じゃがいも・胡瓜・茄子・獅子唐・南瓜などを収穫しました。採りたての夏野菜カレーは、最高です。胡瓜は、自分のレシピで粕漬けにします。自慢の粕は、姉から譲り受けた15年物で、これがまた美味しい。漬物の世界もまた深くて面白いです。(笑)

協会へのご意見やご要望などがあればお願いします。

田中　アスカインデックスは新参者で、これから大変ご厄介になると思います。アナウンスを受ける一方通行でなく、弊社からも情報提供させていただき、双方向で交流を盛んしていければと思っています。また、入会するまで知らなかったのですが、関西、中部、九州など、色々な圏で組織化されているのに驚きました。そういったきめ細かい、歴史のある協会に参加できることを誇りに思います。これから、太いパイプでお付き合いが出来ればいいのかなと思っています。

田中社長(中列中央)と社内スタッフの皆さま